

琉球大学学術リポジトリ

写真や図を中心にみる琉球の農作物主要病害虫 (25)

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-07-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 田盛, 正雄, Tamori, Masao メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/21049

琉球の農作物主要病害虫(25)

病 害

パインアップルしんぐされ病

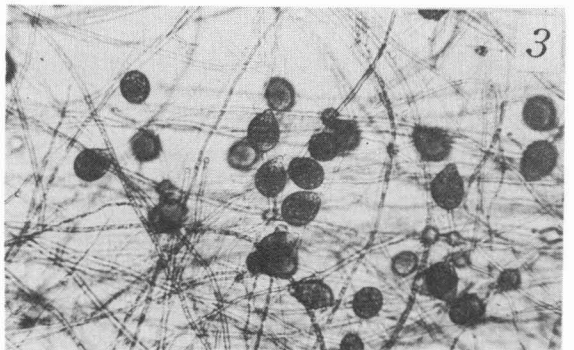
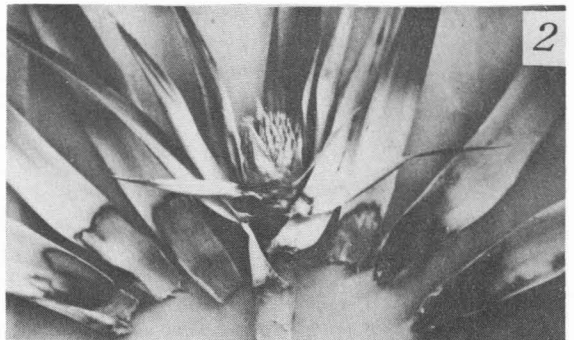
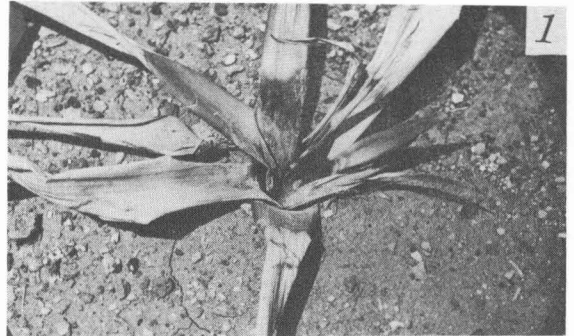
この病害が沖縄ではじめて発見されたのは1958年で、その後沖縄本島の北部と中部、久米島、石垣島、西表島のパインアップル栽培地に広く発生していることがわかり、その防除対策の重要性を認めて筆者が1964年9月から行なってきた研究結果を報告します。

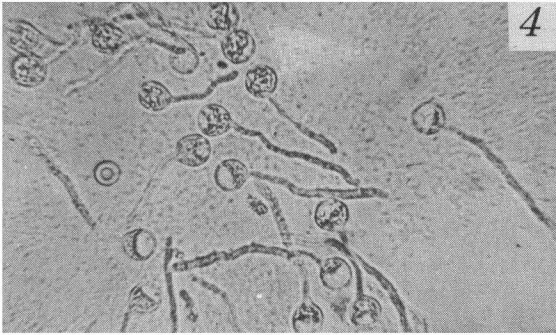
病徴：沖縄での発病は、植え付け後4カ月以内の株に多い。冠芽、えい芽、吸芽いずれの種類の苗にも発病するが、とくにえい芽に多い。老株では、収穫後に出てきた吸芽の結実前に発病したものが多く、幼い果実に発病したものもみられる。発生の時期は11月から翌年の4月頃で、ことに2月、3月に雨が多いと発生がいちじるしい。八重山で観察したところによると、ほこりの立つ道路わきの畑にはとくに多く発生し、また傾斜地の畑の下方の台地になった排水不良や理化学的性質の悪い土壤に育ったパインアップルにもよく発生することが認められた。

病菌：病原菌は疫病菌類に属し、胞子の種類には、胞子のう、遊走子、厚膜胞子、卵胞子などがあり、伝染に最も関係のあるものは、胞子のうと遊走子で、水湿が多いと胞子のうがよく形成され、それが水中で発芽して遊走子をつくり、遊走子は水中を泳いで新しい宿主にたどりついて侵入して発病する。

防除：

- 1 畑は排水をよくする。
- 2 土壤の性質をよくし、パインアップルの生育をよくするようにつとめる。
- 3 パインアップル畑にとくに多く発病する部分があれば、その部分を上記1、2の方法を施行するとともに苗を植える前に土壤をクロールピクリンや有機水銀剤で消毒する。





- 4 発病した株は取り去って焼き，そのあとの土壌は上記の土壌消毒剤で消毒し，そこに植え換える苗も以下にあげる殺菌剤のいずれかにつけて消毒したあとに植える。
- 5 植える前の苗はオーソサイド 400倍液またはマンネブダイセン 400倍液に約15分間つける（いずれも展着剤を加えること）。
- 6 発生時期の11月から4月まで（とくに2，3月）の間は，雨の少ないときは30日おきに，雨の多いときは15日あるいは7日おきにオーソサイドまたはマンネブダイセンの400倍液に展着剤を加えて散布する。

写真説明

1. 植え付け後2カ月目に発病した株
2. 結実前に発病した株
3. パインアップルしんぐされ病菌の菌系体と胞子のう（150倍）
4. パインアップルしんぐされ病菌の遊走子の発芽（600倍）

（田盛正雄）